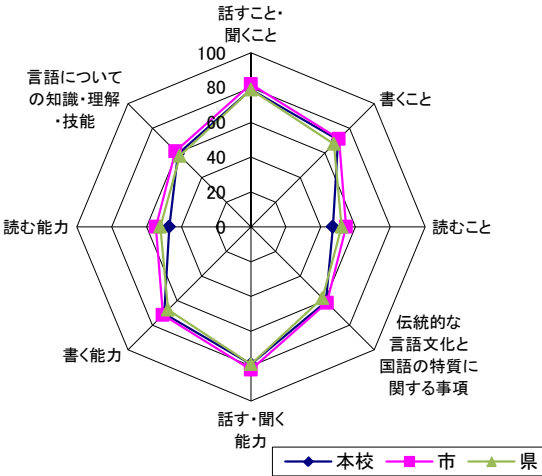


宇都宮市立西が岡小学校第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	78.9	82.0	78.9
	書くこと	70.6	71.5	67.4
	読むこと	47.0	54.6	52.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	60.8	61.7	58.0
観点	話す・聞く能力	78.9	82.0	78.9
	書く能力	70.6	71.5	67.4
	読む能力	47.0	54.6	52.1
	言語についての知識・理解・技能	59.3	61.3	57.7



★指導の工夫と改善

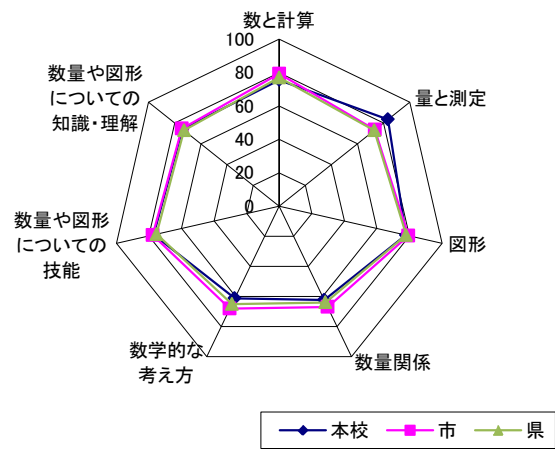
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●領域の平均正答率は78.9%で、県平均と同じである。 ⇒○特に、話の中心に気を付けて聞く設問の正答率は、98.3%であり、県平均より6.4ポイント高い。話の中心の内容の聞き取りに一定の成果が見られる。 ⇒●司会者の話合いの進め方の工夫を聞き取る設問の正答率は50.0%で、県平均より7.2ポイント低い。話合いの内容の聞き取りに課題が見られる。	・小グループで話し合う活動を授業の中に多く設定し、司会を交代しながら学習を進めるようにする。どの児童も司会を経験することで、話合いの進め方の工夫を学べるよう、意識して指導する。
書くこと	○領域の平均正答率は70.6%で、県平均67.4%より3.2ポイント高い。 ⇒○特に、自分の意見を明確に書く設問の正答率は93.3%であり、県平均より10.2ポイント高い。自分の意見を支える理由を適切な表現を用いて書く設問の正答率は75.8%であり、県平均より6.7ポイント高い。意見とその理由を書くことに一定の成果が見られる。 ⇒●指定された長さで文章を書く設問の正答率は55.0%で、県平均より4.5ポイント低い。指定された行数と文字数で文章を書くことに課題が見られる。	・物語を読んだ感想や登場人物の気持ち、要約した文章の内容などを書くときには、行数や文字数を指定して、決められた長さで文章を書く活動を多く取り入れる。
読むこと	●領域の平均正答率は47.0%で、県平均52.1%より5.1ポイント低い。 ⇒○目的や必要に応じて、文章の内容を読み取る設問の正答率は73.3%で、県平均より4.7ポイント高い。説明文の内容の理解に一定の成果が見られる。 ⇒●特に、場面の移り変わりを叙述を基にして読み取る設問の正答率は50.0%で、県平均より13.9ポイント低い。物語の内容の読み取りに課題が見られる。	・登場人物の気持ちが分かるところに線を引きながら読ませたり、会話文のあとに続く気持ちを想像させて吹き出しにまとめたりする活動を多く取り入れ、物語の内容を深く読み取ることができるよう指導する。また、他の教育活動との関連を図り、朝の読書の時間を充実させる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○領域の平均正答率は60.8%で、県平均58.0%より2.8ポイント高い。 ⇒○特に、漢字辞典の使い方を尋ねる設問の正答率は78.3%で、県平均より10.1ポイント高い。漢字辞典の使い方理解に一定の成果が見られる。 ⇒●漢字を書く3問のうち、第3学年の配当漢字「整列」を書く設問の正答率は16.7%で、県平均より13.9ポイント低い。漢字を正しく書くことに課題が見られる。	・漢字の学習では、新出漢字だけでなく、既習の第4学年や第3学年で学習した漢字も読んだり書いたりできるようなワークシートを活用する。新出漢字については、全体のバランスやはね、止め、払いなどに気を付けて丁寧に練習させ、家庭とも連携しながら定着できるよう指導する。

宇都宮市立西が岡小学校第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	75.6	79.3	77.1
	量と測定	83.3	73.4	72.9
	図形	77.9	79.4	78.0
	数量関係	62.4	67.0	64.0
観点	数学的な考え方	61.3	68.2	65.1
	数量や図形についての技能	77.2	77.7	75.4
	数量や図形についての知識・理解	74.0	74.5	72.8



★指導の工夫と改善

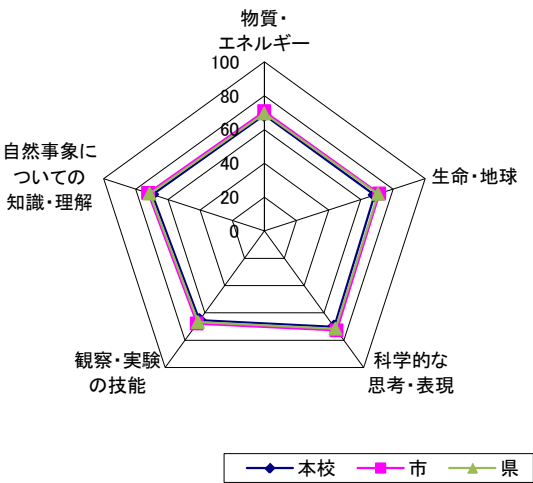
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	●領域の平均正答率は75.6%で、県平均77.1%より1.5ポイント低い。 ⇒○特に、3位数×2位数を計算する設問の正答率は85.0%で、県平均より5.8ポイント高い。計算の定着に一定の成果が見られる。 ⇒●特に、数直線上に示された分数を表す設問の正答率は51.7%で、県平均より10.5ポイント低い。数直線を使った数の理解に課題が見られる。	・小数、分数、大きな数など、数直線を使って数の大小を表したり、どちらの数が大きいかを尋ねたりする問題に多く取り組ませる。計算については、家庭とも連携し、ドリルを活用して繰り返し練習させることで、基礎・基本の定着を図る。
量と測定	○領域の平均正答率は83.3%で、県平均72.9%より10.4ポイント高い。 ⇒○特に、面積の㎡とcm²の単位の関係を尋ねる設問の正答率は60.0%で、県平均より22.9ポイント高い。また、長方形の面積を求める設問の正答率は98.3%で、県平均より7.6ポイント高い。面積の理解に一定の成果が見られる。	・説明だけではなく実際に作ったり試したりする表現活動を充実させることで、児童が実感し、より理解が深まるように指導する。
図形	●領域の平均正答率は77.9%で、県平均78.0%より0.1ポイント低い。 ⇒○特に、直方体の見取り図から平行な面を選ぶ設問の正答率は96.7%で、県平均より4.7ポイント高い。面の構成の理解に一定の成果が見られる。 ⇒●特に、ひし形を作図する設問の正答率は56.7%で、県平均より2.1ポイント低い。作図の技能の習得に課題が見られる。	・三角定規、コンパス、分度器などに慣れさせ、正確に作図ができるように個別指導を充実させる。特に、コンパスを使った作図を数多く経験させる。
数量関係	●領域の平均正答率は62.4%で、県平均64.0%より1.6ポイント低い。 ⇒○特に、折れ線グラフを読み取る設問の正答率は70.0%で、県平均より3.3ポイント高い。折れ線グラフを読み取ることに一定の成果が見られる。 ⇒●特に、伴って変わる二つの数量を○と△と決まった数を使って式に表す設問の正答率は41.7%で、県平均より11.1ポイント低い。二つの数量の関係を理解し、式に表すことに課題が見られる。	・児童にとって身近な日常生活と関連付けた内容について、表を使って考えさせ、伴って変わる二つの数量についての関係が理解できるように指導する。

宇都宮市立西が岡小学校第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	68.6	70.8	69.5
	生命・地球	68.6	71.5	70.8
観点	科学的な思考・表現	70.2	72.8	71.7
	観察・実験の技能	65.3	67.8	66.8
	自然事象についての知識・理解	69.7	72.3	71.4



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	●領域の平均正答率は68.6%で、県平均69.5%より0.9ポイント低い。 ⇒○特に、空気や水を温めたときの体積の変化を選択する設問の正答率は76.7%で、県平均より12.3ポイント高い。体積の変化の理解に一定の成果が見られる。 ⇒●特に、水は沸騰すると水蒸気という気体の水になることを選択する設問の正答率は58.3%で、県平均より9.5ポイント低い。水の変化についての知識の定着に課題が見られる。	・実験前にどのようなことになるか予想させたり、実験後には予想と比べながら考察させたりする活動を充実させることで、より確かな知識として定着できるようにする。
生命・地球	●領域の平均正答率は68.6%で、県平均70.8%より2.2ポイント低い。 ⇒○特に、方位磁針を使って月の方角を答える設問の正答率は80.0%で、県平均より10.4ポイント高い。月の見える方角や動き方についての理解に一定の成果が見られる。 ⇒●特に、気温の正しい測り方を選択する設問の正答率は28.3%で、県平均より22.1ポイント低い。気温を観察する技能に課題が見られる。	・気温を正しく測ることができるように、他の教育活動との関連を図り、日常生活の中で気温を測る経験を多くさせる。

宇都宮市立西が岡小学校第5学年児童質問紙調査

★傾向

○良好なもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の授業の予習をしている。」と回答した児童は65.0%で、県平均より10.9ポイント高い。「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。」と回答した児童は75.0%で、県平均より14.0ポイント高い。学習に対して真面目に努力している児童が多く、成果が表れている。

○「できるだけ自分ひとりの力で物事を解決しようとしている。」と回答した児童は95.0%で、県平均より11.7ポイント高い。自分で考え、解決しようとしている児童が多いことが伺える。

●「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる。」と回答した児童は、63.3%で、県平均より9.5ポイント低い。自分で考え努力しようとしている児童のよさをさらに伸ばすためにも、分からないことは素直に教師に聞けるような安心感のある接し方と児童との関係を築いていくことが大切であると考えられる。

●「携帯電話・スマートフォンを持っている。」と回答した児童は40.0%で、県平均より11.3ポイント高い。しかし、「見てはいけないサイトにつながらないようにになっている。」と回答した児童は54.2%で、県平均より9.7ポイント低い。所持率が高いが、危機管理意識が薄いことが伺われる。このような実態から、家庭とも連携し、情報モラル教育をさらに推進していく必要がある。

○「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。」と回答した児童は88.3%で、県平均より10.4ポイント高い。「自分の行動や発言に自信をもっている。」と回答した児童は71.7%で、県平均より11.5ポイント高い。様々なことに前向きに取り組み、自信をもって生活している児童が多いことが分かる。

●「将来の夢や目標がある。」と回答した児童は81.7%で、県平均より10.1ポイント低い。教師自身が自分の夢をもち、それを児童に語っていくようにしたい。そして、夢や目標に向けて努力する児童を育てていきたい。

●「家の人と学校での出来事について話をしている。」と回答した児童は、76.7%で、県平均より8.8ポイント低い。また、「家の人と学習について話をしている。」と回答した児童は68.3%で、県平均より7.3ポイント低い。それぞれの家庭でさらに児童と関わることができるよう、家庭学習を工夫したり学年・学級懇談会で話題にしたりしていきたい。学校と家庭が連携して児童を見守り、育てていくことが大切であると考えられる。

●「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある。」と回答した児童は58.3%で、県平均より12.2ポイント低い。また、「地域社会などでボランティア活動に参加したことがある。」と回答した児童は31.7%で、県平均より16.2ポイント低い。生活の拠点である地域に目を向け、地域の一員としてできることを実践していく児童の育成に力を入れて取り組む必要がある。